

関西水域フリートレース（最終シリーズ）レポート

～国際470級関西選手権～

真夏の西宮ではあったが、台風のかすかな影響を受けて、本来の西宮の風ではなく朝から西寄りの風が入っているなか関西選手権が開催されました。

本大会は、和歌山を拠点とする昨年の西宮の全日本チャンピオンの市野・吉見組（関西学院大学・栄和）を始め、NTの渡辺・八山組（エス・ピー・ネットワーク）、関東470を制した前田・野呂組（エス・ピー・ネットワーク）も参加、また、吉迫・大熊組（ベネッセコーポレーション）からはヨーロッパからメールでエントリー、帰国直後の参加となりました。

更に今大会には、岐阜県の西村・大嶋組、山口県の阿部・森田組に加え、久しぶりのレースを楽しめたという中村公俊・山近組もエントリー、関西のベテラン大津・岩崎組、徳島の奈良・稲井組を加え、新旧のトップセーラーが顔をそろえる豪華な大会となりました。

今回のエントリー数は、54艇のエントリーがありましたが、実質的な参加艇は42艇となりましたが、関西の学生にとっても、トップセーラーと間近に走ることができる貴重な体験の場となりました。

8月6日（土）は、朝から西寄りの風が入っていたものの、風軸が安定せず、11時04分の最初のスタートがゼネラルリコール。その後マーク変更を行いながら、3回のゼネラルリコールを繰り返し4回目に240°2.5m/sの風でスタート前田・野呂組が幸先よくトップフィニッシュ、2位に西村・大嶋組（海津セーリングクラブ）、3位に辻・嶋津組（肥後銀行・熊本大学）と続いた。



第2レースは風速もあがり4.5m/s 255°12時36分にオールクリアでスタート、西村・大嶋組がトップフィニッシュし1位に浮上した。2位は大曲・西口組（関西大・長崎自動車）3位に前田・野呂組、市野・吉見組は連続の4位フィニッシュ。

続く第3レースは風向が変わらず、風速5.5m/sまであがり、2回のゼネラルリコールの後、13時52分にスタート、このレースは1上を市野・吉見組が回航するも、2上では、吉迫・大熊組がトップで回航しそのままトップフィニッシュ、2位に市野・吉見組、3位に西村・大嶋組、4位に前田・野呂組、5位には関東から参加の西村・大矢組（WST）が入った。

風向・風速とも安定した第4レースは、14時41分にスタートしトップは前田・野呂組、2位は手堅く吉迫・大熊組、3位は阿部・森田組（J・F・P）と続き、西村・大嶋組は7位フィニッシュでこの時点で前田・野呂組にトップを明け渡しました。

本日最終の第5レースは15時38分にスタート、市野・吉見組が念願のトップフィニッシュ、2位に前田・野呂組、3位にやっと来ました渡辺・八山組。



5レースが終了した時点で既にワンカットが入り、1位前田・野呂組（7点）、2位西村・大嶋組（10点）、3位市野・吉見組（11点）、4位吉迫・大熊組（14点）、5位渡辺・八山組（21点）、そして6位には8-5-6-6-7とまとめた山口県の中村・山近組（24点）と続きました。関西の学生トップは西尾・溝上組（関西学院大）が10位（46点）につけています。

前田・野呂組が関東470に続き、関西470と連覇するのか。西宮で学生時代の4年間セーリングをした昨年の全日本チャンピオンの意地で最後に逆転するのかは最終日に持ち越されました。



全8レース中5レースが終了しており、8月7日（日）の3レースの成績で今年の関西470の優勝者が決まります。

最終日には波乱がありました。

8月7日10時43分に235°3.0m/sの軽風のなか第6レースはオールクリアでスタート、トップフィニッシュをしたのは中村・山近組、2位は奈良・稲井組（徳島県セーリング連盟）、3位に宮川・内野組（Siesta・日本経済大学）が入り、上位陣は市野・吉見組が4位、前田・野呂組が9位、吉迫・大熊組が6位でフィニッシュ、この時点で前田・野呂組、市野・吉見組が11点で並びます。西村・大嶋組はこのレース18位で後退します。



第7レースも同じ風で11時56分にリコール艇ありスタートし最初にフィニッシュラインを横切ったのは大曲・西口組だったが、OCSのため、1位は竹本・上村組（近畿大）初の学生のトップフィニッシュです。

2位には市野・吉見組、3位に中村・山近組が入り、4位に玉井・原組（近畿大）と続きました。前田・野呂組が13位となった時点で市野・吉見組が総合トップに躍り出ました。

1位と2位の差は3点、最終第8レースで勝負が決まります。

このレースで8位となった市野・吉見組が10位の前田・野呂組を抑えて優勝し、11月の全日本に続き、今年8月の関西470と西宮の海を制しました。

市野選手は、2009年以来2回目の関西チャンピオンとなりました。

第8レースの1位は宮川・内野組、2位は西尾・溝上組、3位は岩見・中野組（武田薬品工業・関西学院大）と続きました。



今回のレベルの高い選手のレースを見ていて参考になったことがあります。

1つは吉迫・大熊組がスタートで出遅れても2分後には、一線でスタートした選手と同じ高さまで挽回していることです。レースの参加艇のレベル差もあるでしょうが、リカバリーのすばらしさには感心しました。



もう一つは、470のパンピングについてです。O旗が揚がっている状況のなか、1艇はメインセールとスピネーカーを強く連続してパンプをしていました。

その前にいた艇は、波と風に合わせた軽いパンプでした。軽く波と風に合わせていた艇の方がマーク2からマーク3の間で、5～6艇身先行しました。果たして、今のトップレベルのパンプが有効なのか。少し気になりましたので皆さんも一度試してみてください。

さて、関西の年間ポイントランキングは、西尾選手が関西470の最終レースで2位となり、最終レースで、笠井選手を逆転しランキング1位となりました。

最終成績

1位	市野・吉見組（関西学院大・栄和）	21点
2位	前田・野呂組（エス・ピー・ネットワーク）	30点
3位	吉迫・大熊組（ベネッセコーポレーション）	34点
4位	中村・山近組（山口県セーリング連盟）	36点
5位	西村・大島組（海津セーリングクラブ）	57点
6位	宮川・内野組（S i e s t a・日本経済大学）	57点